

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502611		
法人名	有限会社札幌介護サービス		
事業所名	グループホーム藤野いこいの家		
所在地	札幌市南区藤野3条6丁目5-5 (電話) 011-594-4151		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年2月28日

【情報提供票より】 (20年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15	人
職員数	14 人	常勤	14人,	非常勤 人, 常勤換算 14

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費16,000 11~3月 21,000 円
敷 金	(有) (30,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 40,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護 1	2	要介護 2	8		
要介護 3	3	要介護 4	2		
要介護 5	要支援 2				
年齢	平均 83.7 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院 坂井歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道沿いで、商業施設や病院などに囲まれた、交通と生活の便に恵まれた住宅地に位置する。同じ建物にデイサービスセンターが併設されて、設備や行事などの便宜を共有しあっている。建物は新しく、清潔で明るく、広くて、高級感のある住まいである。利用者本位、家族連携、地域貢献・交流、職員資質向上を柱とした、しっかりした運営理念の下に、意欲的に取り組んでいる。町内会、老人会、小中学校など地域との交流には積極的に取り組み、良い関係を築いている。運営者は職員の育成に熱心で、外部研修には計画的に参加させ、内部研修も定期的に行っている。管理者・職員相互の意思疎通、信頼関係がよく、利用者の満足につながっている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では区行政や関係機関、団体との協力関係を積極的に構築することを望む、とされたが、まだ十分とはいえないものの、区や社会福祉協議会、地域包括支援センターとの緊密な連携は徐々にできつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 管理者が原案を作成し、ユニットごとの職員会議(フロア会議)で提起し、意見を集約してまとめあげた。職員への理解は必ずしも十分とはいえない部分を残したものの、評価を、日ごろの介護を振り返る好機と受け止め、改善に活かしている。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年に1~2回開催と、まだ定着はしていないが、外部から積極的な提案がなされるなど、実のある会議となっている。参加メンバーは施設側のほかに、家族代表、民生委員、町内会代表、地域包括センター職員、社会福祉協議会職員で構成され、議題は施設の活動、生活の様子、行事、評価等について取り上げられている。家族や町内会などから出された意見に基づいて地域の協力を得るなど、サービスの向上に活かした取り組みが行われている。</p>
	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情は運営改善の重要な手がかりと捉え、家族がホームへ来所したときは必ず話し合える時間を取り、意見や不満があれば聞き取るように努力している。出された意見や苦情はケースカンファレンスで取り上げ、対応を協議している。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、夏祭り、花壇の苗植え、手入れなどの行事・活動に参加している。老人クラブには要請によりスタッフが講師として訪問し、介護予防や転倒予防の講習を行っている。近くの小学校の学習発表会に招かれ、フィールドワークも引き受けている。高校の吹奏楽にも招かれる。ホームのクリスマス会や夏祭りには地域の住民も招いている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位、家族連携・交流、地域貢献・交流、職員の資質向上、という4項目の理念を掲げて日々の実践の拠り所としている。	○	現在の理念をさらに噛み砕いて、現場の実態や職員の感覚に合わせてより身近な、わかりやすいものになるよう検討中、とのことなので、その実現を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間の見えやすいところに掲げてあるほか、カードにして職員が常時携帯し、いつでも確認できるように工夫している。月例の施設連絡会議やフロア会議で随時議題に取り上げ、活動の基準として実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、夏祭り、花壇の苗植えなどの行事・活動に参加している。老人クラブには職員が講師として訪問し、介護予防や転倒予防の講習を行っている。小学校の学習発表会や高校の吹奏楽にも招かれる。ホームの行事には地域の住民も招いている。	○	老人クラブについては、いまのところ職員が講師に招かれているだけなので、今後は利用者も参加できる機会をつくっていききたいとのことなので、その実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が原案を作成し、フロア会議で提起し、職員の意見を集約してまとめあげた。職員の理解は必ずしも十分とはいえない部分を残しはしたもの、評価を、日ごろの介護を振り返る好機と受け止め、改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1~2回だけの開催となっているが、施設の活動、生活の様子、行事、評価等が議題に取り上げられ、活発な討議が行われている。家族や町内会などから出された意見に基づいて地域の協力を得るなど、サービスの向上に活かした取り組みが行われている。	○	2ヶ月に1回の定例開催を運営規定にも掲げているので、その実現へ向けての努力を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所はしばしば訪問し、市主催の会議にも参加している。社会福祉協議会や地域包括支援センターとの交流も頻繁に行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	区とは事務的な付き合いに止まらず、情報交換や協力要請などで積極的に連携し、サービス向上に活用するよう、期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の様子を知らせるホーム便り「いこい」を年に4回発行するほか、個別の連絡のための手紙を2ヶ月に1回、また必要に応じて随時送付している。家族は毎週、あるいは少なくとも2ヶ月に1回は来訪しているのでそのとき詳しい報告をするようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、苦情は運営改善の重要な手がかりと捉え、家族が来訪したときは必ず話し合う時間を取り、意見や不満があれば聞き取るように努力している。出された意見や苦情はケースカンファレンスで取り上げ、対応を協議している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの人事異動はなく、顔なじみの職員によるケアを心がけ、信頼関係を築いている。個人事情によるやむをえない退職のときは本人から挨拶、説明することもある。引継ぎには利用者の動揺が起こらないよう、最善の努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列のデイサービスも含めた法人としての職員教育計画を持ち、育成に努めている。約1週間の新人教育を行うほか、職員ごとに、年に1～5回程度の外部研修を受けさせている。事業所内部では外部研修の報告会のほか、毎月事例検討発表会が行われる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流の場として南区グループホーム管理者会議、札幌市グループホーム協議会主催の会議がそれぞれ年に3回あり、いずれにも参加している。管理者レベルの勉強・情報交換が主な内容で、サービスの向上に役立てられている。	○	同業者自身による独自の交流の機会も設け、一般職員も参加しての相互訪問なども実現したいとの意向なので、その実現を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立って何度か施設を訪問してもらい、場の雰囲気に慣れるよう、家族の協力も得て工夫・配慮している。また、日帰り訪問、食事会、入居を前提とした短期入所等も検討している。入居後しばらくは他の利用者の協力も得て、声かけや、リビングでの居場所の確保などの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各人の能力に応じて役割分担を持って自信につながるよう、工夫するほか、社会の動き、ニュースなどを取り上げて共通の話題を作っている。職員は利用者を、人生の先輩として尊敬する立場を堅持しており、利用者にしきたりやマナーを教わることも少なくない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や家族からの情報によってできる限り本人の希望をかなえられるよう心がけている。問題行動はなんらかの訴えと理解し、病気の知識や情報から、思いや意向を察するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員と介護支援専門員が話し合いをして、家族、利用者の希望や意見を取り入れた計画を立て、その後、職員全員で話し合いをして最終的な介護計画を作成している。介護計画は、家族に確認の署名をもらってコピーを渡し、利用者にも可能な限り見てもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っているが、環境や身体の変化で利用者の状態に変化が生じた時には随時見直しをして、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医を受診する利用者が多いが、家族と相談をしながら、通院の送迎は職員が柔軟に対応している。管理者自身が看護師であり、体調変化にも早期に対応している。協力医療機関との医療連携も取られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の、それぞれのかかりつけ医への受診や通院は、家族と相談しながら希望にそって自由できるように配慮し、送迎も柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の体調の変化のたびに、家族や医師と話し合い、重度化の時の対応について職員と関係者全員で方針を共有している。夜間の連絡体制、重度化看取り対応の基本、介護内容、医療機関や在宅の移送などの項目にわたる、看取り介護についての同意書を作成している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄などプライベートな場面においてはさりげない言葉に配慮して対応している。利用者に対する言葉がけも、命令口調にならないように個々を尊重した対応をしている。個別情報の伝達は職員同士で筆談で行ったり、他の利用者に聞こえないように配慮している。	○	現在、面会受付簿は全体の書類として玄関に置いているので、プライバシーの面から個別の記録用紙を準備することを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の1日のスケジュールはめやすとして決めているが、個々の利用者の生活リズムを尊重し、起床時間や食事時間も自分のペースで生活できるようにしている。併設しているデイサービスのカラオケや体操などにも、利用者が好きな時に参加できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を取り入れながら職員が交代で作成し管理者が確認している。基本献立はあるが、利用者の希望にそって臨機応変に対応して、食事を楽しめるように配慮している。食事の準備や片付けなども、利用者の能力に応じて職員と一緒にやっている。	○	利用者同志の行き違いにより、スムーズに食事の準備や片付けができず、手伝いにも偏りがみられる時があるので、それぞれの利用者にあった手伝いができるようにより一層配慮していくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望にそって入浴できるように夜間入浴の体制も整えており、10時～19時頃まで毎日可能である。入浴を拒否する利用者には、事前に対応を考えて声かけをして、スムーズに入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、掃除、洗濯物たたみなど、日常生活の中で、利用者自身が得意な事などで役割意識をもって楽しく過ごせるようにしている。利用者の希望を取り入れて、外食やボーリング、カラオケ、冬季は、雪祭り見学などに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季の散歩も、希望する利用者には職員が柔軟に対応している。冬季以外は、利用者の体調に合わせて毎日外出して、近隣の池の鯉を見に行ったりしている。買い物やドライブ、外出レクなども個別の希望を取り入れ様々な形で外出できるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、自由に出入りができるようにしている。一人ひとりの行動を把握し、さりげなく声かけをしながら、外出したい様子の時は職員が誘ったり、付き添ったりしながら利用者の意志を尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、防火管理者指導のもとに毎年避難訓練を実施している。デイサービスも含め、緊急時の連絡網を作成して、伝言訓練を行っている。運営推進会議の議題として、避難場所の確保についても提案している。	○	町内会長や運営推進会議で、緊急時の協力を呼びかけているが、近隣に対しても、緊急時に協力が得られるように呼びかけていくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループホーム独自の生活チェック表を作成し、毎日の食事、水分の摂取量を個々に記録している。時間配分を考えて、1日を通じて必要量が取れるように個々に応じた対応をしている。	○	献立は職員が作成しており、栄養バランスやカロリー計算の専門家によるチェックが行われていないため、協力医療機関などの管理栄養士に定期的に栄養バランスのチェックをしてもらうことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者による手作りのれんや、壁掛け、カレンダーなどが飾られている。壁掛けやちぎり絵なども季節感を感じる温かなものが飾られていて、居心地よく過ごせるようにしている。ソファでゆったり座りながら、調理する音が聞こえるなど、生活感を取り入れた配置になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や利用者と相談して、希望の物を持って来てもらい、それぞれの利用者の個性が出る落ち着いた居室になっている。家族写真や仏壇、テレビなどが置かれ、本人が安心して居心地よく過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。